

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第2回 豊中市産業振興審議会		
開催日時	令和3年(2021年)10月7日(木) 15時00分～17時00分		
開催場所	新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、Zoomを利用したオンライン開催	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	都市活力部 産業振興課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	梅村委員、加賀委員、菅野委員、山脇委員、吉村委員	
	事務局	長坂都市活力部部長、藤家都市活力部次長、高島産業振興課長、良本課長補佐、多田係長、牟田、島村	
	その他		
議題	(1) (仮称)豊中市 新・産業ビジョン策定について (2) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

令和3年度第2回豊中市産業振興審議会会議録

日時：令和3年（2021年）10月7日（木）15時～17時

場所：とよなか起業・チャレンジセンター

開催方式：Zoomを使用したオンライン開催方式

出席者：加賀会長、梅村委員、吉村委員、菅野委員、山脇委員
（欠席委員：東委員、北村委員、和田委員）

1. 開会

・資料の確認

資料1 「（仮称）豊中市 新・産業ビジョン 体系図」

資料2 「（仮称）豊中市 新・産業ビジョン（案）について」

資料3 「令和3年度（仮称）豊中市 新・産業ビジョン策定スケジュール」

【事務局から説明】

- ・ 審議会の成立確認（過半数の出席）：委員8名のうち5名出席で成立
- ・ 傍聴者：1名
- ・ コロナ禍のためオンライン開催

2. 案件

（1）（仮称）豊中市 新・産業ビジョンの策定について

（事務局）

資料1～3を説明

（会長）

- ・ 委員の皆様にはビジョンの策定に関する施策の内容や全体の方向性などについて、専門分野からのアドバイスやご意見をお願いしたい。

（委員）

- ・ 全体の方向性としては、異論はない。
- ・ 資料2の4ページ「1 市内事業者の生産性・付加価値向上による成長促進を支援」とあるが、現在コロナ禍でダメージを受けている中小企業者がたくさんおり、中には苦しい環境の中で事業を継続したいという事業者も多いと思う。このような事業者を支援するという意味において、成長促進の文言の前に、事業継続支援も入れてはどうか。
- ・ 同ページで、「1-1 設備投資の支援」と「1-2 商品・サービスの高付加価値化と技術の高度化の支援」の記載があるが、事業再構築や多角化への支援という観点で、この2つの項目に含まれていない

のであれば、入れた方がよい。

- ・同ページの「1-6 労働者一人ひとりの能力開発の支援」の内容は、同資料の6ページの「1-2 多様な働き方の支援」にも該当するので、内容の記載場所を変更した方がよい。
- ・同資料の5ページの「2-1 潜在的労働力の活用」の説明文章で「障害者のマッチング機能の充実を図ります」とあるが、マッチング機能の充実を図る対象は障害者だけではなく、高齢者、外国人、女性も対象になるので、表現を工夫した方がよい。
- ・「2-2 中小企業の人材確保の支援」という項目では、「こんなにも光っている中小企業、こんなすごいものを作っている中小企業がある」といった魅力ある中小企業の情報発信についても記載した方がよい。
- ・同資料6ページの「1-1 起業支援体制の充実」の項目については、創業者同士や、創業してしばらくたった事業者との交流の機会を求める創業者が多いので、商工会議所等とも連携した交流会の実施も記載した方がよい。
- ・同資料の10ページの「大阪国際空港」の項目については、「空港」は隣接している伊丹市や池田市にとっても関係があるので、一緒に事業を行うと相乗効果が生まれる。他市と連携した内容の記載もあるとよい。

(委員)

- ・コロナ禍における市内事業者の状況の把握や支援策の内容が盛り込まれているのか、という視点が重要だと思う。資料2の1ページにある「策定の目的と計画期間」の文章で、「社会経済環境の変化に柔軟に対応するため、適宜、計画内容を見直します」という内容がある。「適宜」とは、どのレベルの「適宜」なのかが記載されていない。コロナによって明らかに経済環境が激変しているのに、この変化により「この部分が変わった」とか、「この部分はこの内容を付け足した」とか、コロナ禍の影響で変更になった部分が見えないのは疑問である。
- ・同ページの「本市の特徴」の項目について、「40万人を擁する住宅都市」と表記されている。今までは「住宅都市と産業都市の共生」と表記されていたと認識しているがどうか。
- ・先日、商工会議所の正副会頭会議で「新・産業ビジョン」についての説明を聞く機会があった。その時に出た意見では、「①適宜見直すとは言っているが、6年という計画期間はずいぶん長い。市長選も遠くない時期に予定されており、結果によっては内容が変わってしまう可能性もある。このことに対しての市の見解がわからない。②盛り沢山の内容が計画に記載されている。計画を実行するにあたり、民間企業は担当セクションを明記するのが絶対条件だが、一切、担当セクションの明記がない。③これだけのプロジェクトを進めていくに当たって予算が全く提示されていない。予算は最終的に議会が決議をするが、議会に提出する案というのは市が作成するので、予算案は記載できるのではないか。」という内容のものがあった。この内容に対する回答が、本日はなかったので、どの内容を適宜変更するのか疑問に思う。

(事務局)

- ・この「新・産業ビジョン」の策定に向けた審議会での審議を昨年1年間延期したという経緯がある。その間にビジョンの前段となる「地域経済再生支援プログラム」を令和3年3月に策定し、令和3年4月か

ら「地域経済再生支援プログラム」に基づく事業を実施している。この「地域経済再生支援プログラム」は2年の計画となっており、令和3～4年のコロナ禍の影響が続いている中、地域経済の再生を最優先課題として捉えた様々な施策を短期集中型の支援策として実施している。このプログラムの内容を受け、ビジョンの第5章に具体的な施策例を列記した。「地域経済再生支援プログラム」から続く部分も多くあり、コロナによる影響を受けた事業所への配慮を一定加味したビジョンになっている。この部分の見え方が弱いということであれば、委員から「こうした発信の仕方がいいのではないか」というご意見・アドバイスをいただきたい。

- ・2点目の「40万人を擁する住宅都市」と表記しているが、豊中市は40万人の住宅都市でありつつ、産業都市でもあるというところを特徴としてとらえているので、方向性が変わったということではない。
- ・計画期間の6年が長いというご意見については、適宜、計画内容を見直すと記載しているが、基本的な考え方としては中間見直で3年を考えている。コロナの影響による社会経済環境の変化のスピードの速さは相当なものであり、3年にしぼられず、その都度、状況を見ながら見直していきたいという意向で記載している。
- ・盛りだくさんの内容で担当セクションと予算の提示がないという点については、外向きに発信する段階においては、一定明らかにしていく必要があると考えている。記載内容については今後検討し、内容を提示できるようにしたいと考えている。
- ・商工会議所での正副会頭会議にていただいたご意見については、十分承知している。10月21日に事業者向けの意見交換会を予定しているので、この意見交換会までに一定修正したものを提示したいと考えている。

(委員)

- ・言葉が独り歩きする場合もある。「住宅都市」と言ってしまうと、「豊中市は住宅都市だ」というイメージを植え付けることにもなりうるので、可能ならば「40万人と1万3,000企業を擁する住宅・産業都市」と表記してもらいたい
- ・コロナ対策に関しては、現実に多くの予算が執行されている。一連のコロナ対策の内容を整理し、コロナ対策にこれだけの予算が使われているという事実を見える化し、次の施策への財産となるように利用したらよいと思う。

(会長)

- ・新・産業ビジョンの内容を考えていくにあたり、コロナ対策を経て、どのような内容を課題・問題点としてとらえたかを追記すると、ビジョンの内容への反映部分が見えてくると思う。資料としては半ページか1枚くらいでコロナ対策として記載するか、参考資料として末尾に付けるかを検討してもらえればと思う。事業所へのアンケートによるデータもあるので、データ等の根拠に基づいてビジョンが作られていると簡潔にまとめるのも一つの方法だと思う。

(委員)

- ・全体としては、自治体の産業政策なのだが、「中小企業支援」であることが本文から読み取りにくい。大阪・北摂の住宅都市が実施する産業政策に見える。昨今、東京都の港区でも中小企業支援を目出し

にしている。豊中市がどこに向かおうとしているのかがわからない。

(事務局)

- ・ 中小企業支援はもちろん重要視している。コロナ対策の事業者支援をこの2年間行ってきた中で、市役所と商工会議所の役割が、明確化してきたと感じている。中小企業支援は会議所にメインで担ってもらい、行政は地域経済を再生させ、好循環させる流れをつくる部分を担ってきたと感じている。予算配分からも、この2年間は地域経済の再生に注力してきた部分が大きいと考えている。
- ・ 表現がわかりにくいということであれば、表現方法に関するアドバイスをいただきたい。

(委員)

- ・ 地域産業を作っていく両輪だということで、多くの市が商工会議所と連携して施策展開している。福岡市等は先進的な都市である。ただ、商工会議所は商工会議所法に基づいた組織で、基本的なサービスは会員向けサービスになっている。例えば、国や府、あるいは豊中市から仕事を受け、委託料が別途支払われているので、それを役割分担と言われると違和感がある。

(事務局)

- ・ 本市の場合は9割以上が中小企業であり、ビジョン全体としては中小企業をイメージして作成している。地域経済循環の部分でリーサスの考え方に基づいた表記があるため、商業系の部分が目立っていると思う。

(委員)

- ・ この政策展開で地域の企業が支援されているかと言われれば、多少疑問が残る。例えば、1-1 設備投資を支援します、1-2 商品・サービスの高付加価値化を支援します、1-3 デジタル化をサポートします、1-4 資金を出します、1-5 BCPの策定を支援します、1-6 労働者の能力開発の支援をします、と言葉が並んでいるが、もっと施策展開に関して具体的な内容の説明がいると思う。

(委員)

- ・ 事前説明の際に、「中小企業に対する支援」と説明を受けていたので、今回示された内容も中小企業メインの支援だと違和感なく受け止めた。今後、具体的な内容が出てくると思うが、実際この先どういうふう支援していくのか、市民が期待する内容が出てくるのか、中小より大きな企業向けの支援策を仕掛けていくのかという不安と期待感もある。ビジョンの内容としては、今のままの内容で良いと思う。

(会長)

- ・ このビジョンは、全体像としてはいいと思うが、先ほどの具体的な政策などをビジョンの中でどこまで書くのかは決めておく必要がある。ビジョンでは方向性を打ち出し、実際に政策としてどこの部署がいくらの予算でどう実行していくのかを、アクションプランとして進めていくのか、どこまでビジョンに含めるのかということは確認をしておきたい。

(事務局)

- ・もともとは産業ビジョンということで、一定の方向性を示すものであるという位置づけでいたが、6年という期間の中で、かつ実際には予算を明確にしながら担当セクションまでも明記していくということで考えると、アクションプランになると思う。むしろアクションプランの方が、実際に事業者が計画内容を見たときにわかりやすいと思う。例えば、「より具体的な施策まで落とし込んだ形でまとめる方がよい」という審議会の意見があれば、その意見に対応することも可能だと考える。

(会長)

- ・事務局から具体的な施策まで記したアクションプランとしてまとめていくことも可能だという意見があったが、このあたりについてはいかがか。

(委員)

- ・様々な項目が含まれているが、ビジョンとして大きな方向性が出ているので、ビジョンという位置づけでよいと思う。

(委員)

- ・ビジョンの場合、総合的な記載になる可能性が高い。事業には人も担当セクションも予算も全部付いて回るけれども、その部分を見捨てる、あれもやる、これもやるとなるのが最悪のパターンだ。全ての内容をアクションプランとして、具体的に細部まで示すというのも無理があるので、ビジョンとしての書きぶりとのバランスが必要である。

(会長)

- ・ビジョンとするならば総合的にならないようにする。それをチェックするのも審議会の役割である。アクションプランにするのであれば、具体的な道筋をどこまで記載するのかの判断が必要である。今のところ体系図で掲げている内容については実施可能であると思うので、どこまでを産業ビジョンに掲載するのかという判断をする必要がある。

(委員)

- ・施策のすべてを6年の計画期間内に実施するのは難しいので、施策の中でのプライオリティに応じて実施していくということが必要なのではないか。

(会長)

- ・重要なのは、中小企業の支援策をどういう形で示すのが分かりやすいのかだと思う。ビジョンで方向性を示し、具体的な施策では違う枠組みで実施するにしても、やはり具体的なアクションプランまで示すことが事業者に対しては分かりやすいと感じる。ビジョン、アクションプランのどちらに入れるかについては、今日の審議会ではどちらの意見もあったので、事務局で検討していただきたい。

(委員)

- ・資料2の9～10ページについて確認したい。1点目は、千里エリアで「本社機能の立地誘導」とあるが、遊休地やオフィスで候補地があるのか。例えば、千里エリアではセルシーが閉鎖されている。千里の魅力という観点からは商業施設の再開発は必要であると考えている。
- ・2点目は、大阪国際空港をこのようにしたいとイメージしている空港はあるのか。
- ・3点目は、南部エリアの将来像が地元住民には見えてこない。今後、南部エリアがめざす方向性はあるのか。

(事務局)

- ・千里エリアについては、一部で商業施設の再編の動きがあり、再整備を契機に本社機能の立地などを、検討したいと考えている。
- ・南部エリアについては、具体的にこういう産業振興を実施するまでは記載できないが、学校跡地の活用が一つの目玉になると思っている。また、大阪音楽大学との連携の中で、音楽を活かした文化芸術と産業とのつながりも出していけたらと考えている。「産業と〇〇」というようなコラボでエリアの特徴を出していけたらと考えている。
- ・空港については、資料2の10ページの「航空路線のネットワークを活用して」という項目に基づき、33のネットワークを活用して、名産品を伊丹空港に輸送してくるという事業が始まっており、その拡充、あるいは市内の事業所との連携を展開していきたいと考えている。
- ・大阪国際空港全体の戦略としては、非旅客部門の拡大がある。これは関西エアポートが標榜しており、豊中市も推していきたいと思っている。飛行機に乗ることだけではなく、空港をにぎわいや楽しみのスペースとして活用することで、新しく顧客を広げたいという施策展開である。福岡空港や新千歳空港では、この分野の事業展開が既に進んでいるし、全国的・世界的にもこのような取組みを進めている空港が増加してきている。
- ・同じく10ページの3-2「空港周辺資源を活用した産業振興」というところで、滑走路の緑地を活用して、市民に開放した広域的な魅力スポットを創出していきたいと考えているが、これは、おそらく日本で初めての挑戦ではないかと思う。
- ・また、国際線で大阪に来られた訪日客が、次にインバウンドとして国内線を利用して目的地に行くための中継点として伊丹空港を活用してもらい、その際に豊中でワンクッションのおもてなしを行うことで、次の旅行の準備に取りかかったり、そういう人たちが集まって交流してもらおう拠点としての位置付けを獲得していきたいと考えている。

(委員)

- ・千里エリアと空港についてはよく分かった。ただ、南部エリアについてはもう少し記載してもらいたい。地域住民への説明会的なことの開催を望む声が南部エリアでは多い。

(会長)

- ・大阪音楽大学との連携とか、音楽産業の育成みたいなことを、南部エリアでチャレンジしてみてもよいのではないかと。
- ・千里エリアは、オフィスの空室も結構あると伺っている。そういう空室を活かして事業者と地域が連

携して、例えばコワーキングスペースや地域と連携した利活用ができるスペースとして使用していくという施策もありうるのではないかと思う。

(委員)

- ・産業振興課とは違うが、南部地域の商店街活性化を打ち出していた課があった。他の課とも連携して、もう少し具体的な、市民が喜ぶ施策を南部エリアで実施してほしい。

(会長)

- ・商店街活性化など、市として具体的に取り組んでいる施策もこのビジョンの中に取り上げてもらいたい。

(委員)

- ・「まち・ひと・しごと」という取組みも、この審議会と近い議論をしている。
- ・市役所の中で似たようなテーマを別の組織で市民も巻き込んでやっているものは、整理した方がよい。
- ・数年後に大阪万博が計画されており、インバウンドも含めてかなり大きなイベントとなるので、今のビジョン案の中には記載がないが、取り組めばよいのではないか。

(会長)

- ・産業振興施策は、横断的に様々な部署と連携していくことになるので、連携の仕方については整理してもらいたい。また、大阪万博については、時期的なこともあるが、大きなイベントになるので、位置付けについての検討はした方がよい。

(2) その他

(会長)

- ・次の議題、「案件2 その他」について事務局からあるか。

(事務局)

- ・次回以降の審議会は11月に第3回、12月に第4回を予定している。第3回では新・産業ビジョンの内容についての議論を、12月の第4回では答申案に関する内容についてのご審議をお願いしたい。
- ・2点目として、本日の会議録について、事務局で作成した案を後日、委員の皆さまにご確認いただき、内容を確定する。なお、会議録の概要については豊中市のホームページなどで公開することを了承いただきたい。

(会長)

- ・これで、令和3年度第2回豊中市産業振興審議会を閉会する。

以上